

第94回二松學舎大学人文学会大会講演題目・研究発表要旨

日時 平成十八年十一月十八日(土)
場所 キャンパス1号館五〇一教室

講演

文学研究の現在

— 近代文学研究とパラダイムチェンジ

早稲田大学教育・総合科学学術院教授 石原千秋 先生

研究発表

《国文学》

藤原敦忠、滋幹の出生についての考察

— 時平の妻取婚説話をもとに —

博士前期課程二年 塩島 翔

藤原敦忠の母親について、『尊卑分脈』第一編に
母同保忠母或在原棟梁女

と記されている。「母同保忠母」とは本康親王の娘廉子女王のことである。敦忠の母親が、棟梁女、廉子女王であるかという議論については、今井源衛氏のご研究によって、「在原棟梁女」とであると指摘さ

れ、今日まで通説となっている。

藤原敦忠には、異母兄弟の顯忠、保忠などの他に、異父兄弟である藤原滋幹がいる。在原棟梁女は、最初、滋幹の父である大納言藤原国経の妻であった。しかし、『今昔物語集』などに記されているように、後に左大臣藤原時平の妻となる。江戸時代の『大和物語』、『百人一首』の注釈書では、藤原敦忠の父親は、実は大納言国経であると記されたものが見られる。この記述が正しいものであるか、棟梁女が時平へ嫁いだ年を特定し、その年の正月の記録を確認することで、明らかにしてゆく。

その上で、棟梁女が裳着を行ったと思われる年を導きだすことで、藤原滋幹の生まれたと思われる年を導き出す。

中世歌人の万葉長歌撰取

— 源俊頼・藤原定家を中心に —

二松学舎大学専任講師 五月女 肇 志

源俊頼・藤原定家は積極的に『万葉集』を撰取した歌人として知られる。本発表では、その中でも長歌の撰取に焦点を当てて論じていきたい。